【伊達市】

校務DX計画

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえ、チェックリストに示されている、教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で次に掲げる事項を推進する。

1.　汎用クラウドツールの一層の活用

学校では、教職員間や教職員と児童生徒・保護者との情報共有・連絡にクラウドサービスが活用されており、「保護者への調査・アンケート」や「保護者からの問い合わせ・連絡」のデジタル化が進み、業務の効率化が進んでいるものの、大半の学校では、デジタルドリル教材を用いた宿題の実施や採点が行われていないなど、教職員の働き方の改善が必要である。

今後も、先進的な事例や研修会を通じて、各学校におけるクラウドサービスの活用を更に促進し、効率化の更なる推進を図っていく。

2．FAX・押印の見直しとペーパーレス化の推進

現状、全ての学校でFAXを活用しており、また、保護者や外部とのやり取りにおいて押印や署名が必要な書類があり、これらについてはFAXや押印の見直しを進め、関係団体や事業者に対しても協力を求めていく。

FAXや押印の見直しは、校務の効率化、ペーパーレス化、教職員の働き方改革を実現するために重要な要素であることから、今後は、メールやクラウドサービスの活用を促進し、FAXや押印等の業務の縮小を図っていく。

3．教育情報セキュリティポリシーの徹底と改定

本市では、クラウド上のデータやクラウドサービスを活用することを前提に、「伊達市教育情報セキュリティポリシー」を策定し、各学校に周知している。

デジタル化の進展に伴い、児童生徒や教職員の個人情報漏洩やデータ改ざんのリスク増大が懸念されることから、今後も、国の方針や最新の状況を的確に把握し、必要に応じてポリシーを改正し、学校に対して周知・徹底を図っていく。